



写真■当時の城北公園

空襲が激しく

そのうちに空襲が激しくなり、近くの空き地に掘った防空壕に夜中であろうが大切な物を持って走り込むことも度々でした。一度あまり疲れていた家で寝ていたら天井裏を蛇が這うようなざーざーという音がして（焼夷弾かなにか）とても恐ろしく、生きた心地がしませんでした。



写真■当時の新森中2丁目

当時珍しかったバトミントン（バドミントン）を母や姉妹と（手前右が70年前の著者）

ミシンは大切な道具だったので、母と二人で運んだこともあります。

この思い出のいっぱい詰まったシンガーミシンは平成12年（2000）室内改装のため涙をのんで廃棄しました。

はるはやて 春疾風戦禍に耐へしミシン捨つ

企業からの要請

戦争たけなわ 醍の昭和19年（1944）3月女学校を卒業。進学しないもの、進学しても、文系は皆、挺身隊として軍需工場に働きに出ねばなりません。

私は扇町にあった大阪市立工業研究所の女子化学分析技術員養成所に入ることができ、一年間通いました。出征する男子の欠員補充に「女子を採用する」と、企業からの要請があったのです。専門学校3年課程と、分析を主体として1年で卒業するのです。

そんな忙しい中にも教練と称し三角巾の使い方など看護関係の特訓もあり、その最中南海大地震で3階から1階へ揺れながら階段を駆け下りた記憶があります。



写真■当時の城北運河

造幣局へ入局

昭和20年（1945）4月課程修了後は各自の住居に近い勤務地へ就職となり、私は造幣局の研究課に入りました。最初は電解銅の純度分析で少数以下4桁までの数値が合うまでやられました。何しろお金の分析なので厳しいのです。職場では男性の応召が相つぎ、課長だけ残りました（昭和20年（1945）6月）。陶器

のお金が検討されるようになって椅子の上から落させては強度などを計りました。

空襲があると局では地下室に退避しましたが、そこには土嚢が積まれており、中身はお金だともまた白金や金の地金とも聞き及びました。（真偽の程は不明です）

戦争が終わり、時代が変わる。

空襲も再々で戦争は終局へと、そして8月15日の玉音放送を研究室で聞きました。敗戦とは・・・造幣局は米軍に接収され、正門にはMPが立つようになりました。

入局して間のない私には難しいことは解りませんが、工員さんの入退局時のお風呂場を通っての全身検査はなくなったようです。その年のクリスマスには米兵と合同でコーラス部も入ってパーティーが開かれました。

春には、恒例の通り抜けが。でもこの終戦後初めての昭和21年（1946）春だけ中止されました。私も3月の末で仕事の中身が充実していない職場を去りま

心の中は

物資は不足しても、夜の明るい生活は心が癒され貧しいながらもそれなりの会社生活で青春を過ごしました。

昭和23年（1948）、復員兵士が多くなり、住居も明け渡しを迫られたので当時橋寺町とっていた太子橋

した。（その頃、タバコも配給で、刻みタバコを古いコンサイスの紙などで巻いて作るようなこともしました。）

昭和21年（1946）4月から松下乾電池製造所の研究課に採用され、乗り物のない通勤路を20分ばかり歩いて通勤しました。丁度馬場の宮さん（八幡様）の横をすり抜けるようにして。私の家からお宮さんまでは野原がいっぱいでした。官庁の制服支給に比べ会社は私服でした。

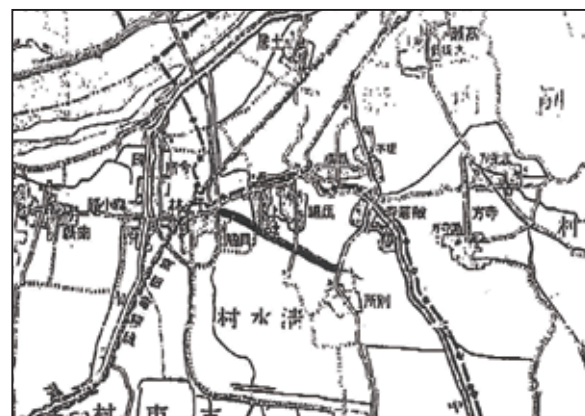
化学薬品を使うのであちこちに穴があいて、洋服の調達には苦労しました。父の白緋の着物でワンピースを作ったこともあります。

へ引っ越したという次第です。今考えるとこの新森小路に住んでいた10年程は私にとっても世の中にあっても古今未曾有の変化多い時期だったといえるように思います。

コラム 「清水新道」 築造の記念碑

旧淀川筋、大字上ノ辻伊勢地の下付樋門より引水する「立井路」は、清水村の本流で、川幅二間の農業用水路である。

この川筋に沿って建設されたのが「清水新道」で、立井路にかかる「上清水橋南詰（清水4丁目）より貝脇橋北詰（清水1丁目）に達するもので、大字別所村民の手により開通せられたる道で、長さ三百六十間、幅一間半なり」



図■清水新道の位置

記念碑には

〔碑文（一部）〕

「上清水橋ヨリ堅井路ニ沿ヒテ貝脇橋ニ至ル道路ハ大字別所ノ築造ニテ大正七年四月一日開通セリ 而シテ本道路ノ敷地ハ所有地主ノ寄付ニ成ルモノニシテ道路ノ竣功ト共ニ沿道ノ発展ヲ促シ…」とある。



写真■記念碑